

ペットの訪問診察を開始

— 専用車による移動式動物病院「ペット救急車」を開設・実施 —

株式会社アムリット・DC



導入された移動式動物病院の内観



実際の診察風景

◆訪問先で詳細な診察が可能

車内を診察室とし、超音波画像診断装置、血液化学検査器、自動血球計算装置、検査情報管理システム等の機器を搭載し、飼い主宅を訪問して診察を行う。こうした方法であればペットが安心できるうえ、質の高いサービスの提供が可能になる。

同社では補助事業で車と各種機器を導入。車はカスタマイズを行うとともに、広告媒体の機能を持たせるために外装を施した。納車後、機器の搬入・設置を行い、診察のシミュレーションを実施した。診察に支障はなかったが、運転席から診察室への移動が不便、飼い主の座る場所がない、薬剤等の収納スペースが足りないという問題が生じた。

そこで車内の左右に検査機器や診察台をまとめて中央に通路を設けた。その際、診察台の長辺を壁面に付けることで、中央の通路を獣医師の診察位置と兼ね、併せて飼い主の座る場所を確保した。薬品に関しては品質維持と盗難防止の面から毎日必要な量だけを持ち込むことにした。

また、一度に複数の機器を使用すると専用のバッテリーが上がってしまうことが判明し、2台のポータブルバッテリーを積載するようにした。

◆事業化による全国展開を目指す

平成27年12月から『移動式動物病院（ペット救急車）』のサービスを開始。自社動物病院から半径25kmを事業エリアとし、基本は獣医師と動物看護師の2名で訪問する。

従来の往診では血液などの検査を行う場合、訪問先で採血して、それを病院に持ち帰って検査しなければならぬ。それが訪問先で検査結果の報告まで行える。一度の往診でより詳細な診察ができることで、その分早く治療に取り掛かれる。

また、訪問先で診察が完了することで、診察に要する時間も従来に比べて約半分の20分になった。そのほか一度検査を行うと次回からは検査の必要がない場合のため、新たに再診用の小型車も導入した。

「メディアに取り上げられたり、車が街中を走っていることで徐々に認知度が高まっている。利用者様からは安心できるといった声のほか、定期検診の依頼もある。今後は救急対応とは別に曜日ごとに訪問エリアを設定し、定期検診や集団検診の仕組みを構築したい。将来的には専門の事業部として全国展開を目指す」と黒田展弘代表取締役は夢を語る。

愛犬の介護体験を通じて、高齢になったペットの世話をどうにかしたいという黒田代表の熱意から始まった事業。ペットと飼い主の双方の高齢化が進む中、サービスの需要拡大を目指しながら、かつての自身と同じ悩みを抱える飼い主の思いに応えていく。 ※文中敬称略

◆ペットの高齢化時代に対応

日本はペット超大国と言われ、飼育頭数は2,200万頭(2013年)を超えている。一方でペットの高齢化が進んでおり、7歳以上(シニア期)が全体の半数以上を占める。

一般的な動物病院では、飼い主がペットを連れて病院に来る「来院型」のサービスしか行っていない。高齢のペットにとっては長い待ち時間や移動が負担になる、飼い主が高齢で病院に連れて行くことができない、院内感染の不安がある、夜間対応をしてもらえる病院が少ない、在宅介護中のペットを家で看取りたい、といった課題が生じている。

ペット商品のネット通販と動物病院を手がけている株式会社アムリット・DCは、こうした現状を踏まえ、病院(獣医師)が飼い主宅に出向く訪問診療を検討。その場合、ペットが自宅での診療を受け入れにくい、持ち込める医療器具に限度があり、十分な診察が行えないという二つの課題があった。その解消を図るため、同社では『移動式動物病院(ペット救急車)』のサービスに取り組んだ。

◆車内診察が可能な車に改造

カスタマイズしたハイルーフ車の

事業者の概要

代表者名	代表取締役 黒田 展弘
設立年月	平成21年12月
所在地	〒700-0953 岡山県岡山市南区西市801-2
TEL/FAX	TEL.086-250-5512 FAX.086-250-5513
U R L	http://www.amrit-dc.jp
E-mail	info@amrit-dc.jp
資本金額	3,000千円
従業員数	34人
業 種	その他の小売業
事業計画名	高齢のペットのための移動式動物病院「ペット救急車」事業の展開